

令和6年度

全国学力・学習状況調査結果報告【概要版】

印西市 小学校・中学校



いんザイ君©2011 Inzai City

印西市教育委員会

印西市教育センター

1 調査の概要

(1)調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2)調査を実施した児童生徒数(印西市)

- 小学校第6学年・・・1,056名
- 中学校第3学年・・・ 938名

(3)調査事項及び手法

ア 児童生徒に対する調査

(ア)教科に関する調査〔国語, 算数・数学〕

国語, 算数・数学はそれぞれ次の①と②を一体的に出題。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(イ)質問調査

学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する質問調査を実施。

イ 学校に対する質問調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査を実施。

(4)調査実施日

令和6年4月18日(木)

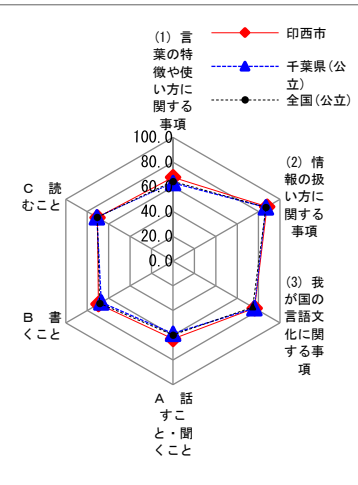
2 小学校調査

(1)教科に関する調査【全国・千葉県との比較】

【国語科】

集計結果

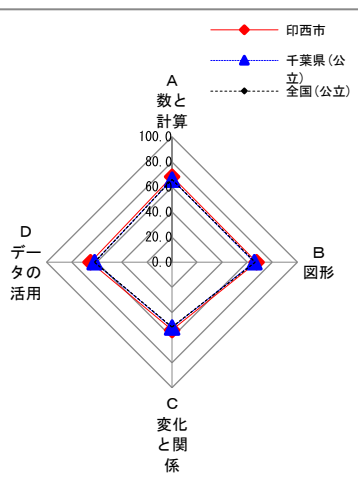
対象児童数		印西市教育委員会	千葉県(公立)	全国(公立)		
		1,055	46,939	947,364		
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			印西市	千葉県(公立)	全国(公立)	
全体		14	70	67	67.7	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	67.7	63.2	64.4
		(2)情報の扱い方に関する事項	1	87.9	86.8	86.9
		(3)我が国の言語文化に関する事項	1	76.3	76.1	74.6
評価の観点	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	63.0	58.7	59.8
		B 書くこと	2	69.5	66.9	68.4
		C 読むこと	3	70.5	71.0	70.7
問題形式	知識・技能	知識・技能	6	72.5	69.3	69.8
		思考・判断・表現	8	67.4	65.4	66.0
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	選択式	10	72.1	69.5	69.9
		短答式	2	63.6	58.5	59.7
		記述式	2	62.9	63.1	64.6



【算数科】

集計結果

対象児童数		印西市教育委員会	千葉県(公立)	全国(公立)		
		1,056	46,953	947,579		
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			印西市	千葉県(公立)	全国(公立)	
全体		16	65	63	63.4	
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	68.3	65.9	66.0	
	B 図形	4	67.5	65.5	66.3	
	C 測定	0				
	C 変化と関係	3	54.0	52.1	51.7	
	D データの活用	4	65.0	61.8	61.8	
評価の観点	知識・技能	知識・技能	9	74.9	72.9	72.8
		思考・判断・表現	7	53.2	50.8	51.4
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	選択式	5	77.4	75.3	75.3
		短答式	7	64.7	62.1	62.0
		記述式	4	51.7	50.0	51.0



【考察】

<国語科>

- ・「目的や意図に応じて話題を決める」や「伝えたいことを明確にする」などの表現力項目で県及び全国平均を上回り、特に論理的な整理と明確な表現に強みがある。しかし、「表現の工夫」や「事実と感想の区別」では改善の余地があり、さらなる指導を必要とする。
- ・漢字の正しい使用に関しては県及び全国平均を上回っているが、「文中で漢字を正しく使う」項目ではまだ課題があり、漢字の定着を図るための練習や指導の強化が求められる。

- ・登場人物の心情や人物像の理解においては県及び全国平均を上回る成果を示しているが、「物語全体像の把握」では若干劣っており、読解力の一部強化が必要である。
- ・読書の重要性への認識は高く、児童が読書に積極的に取り組み思考を広げる一助となっていることが推察される。今後も読書の楽しさを伝える取り組みを継続・強化することが望まれる。

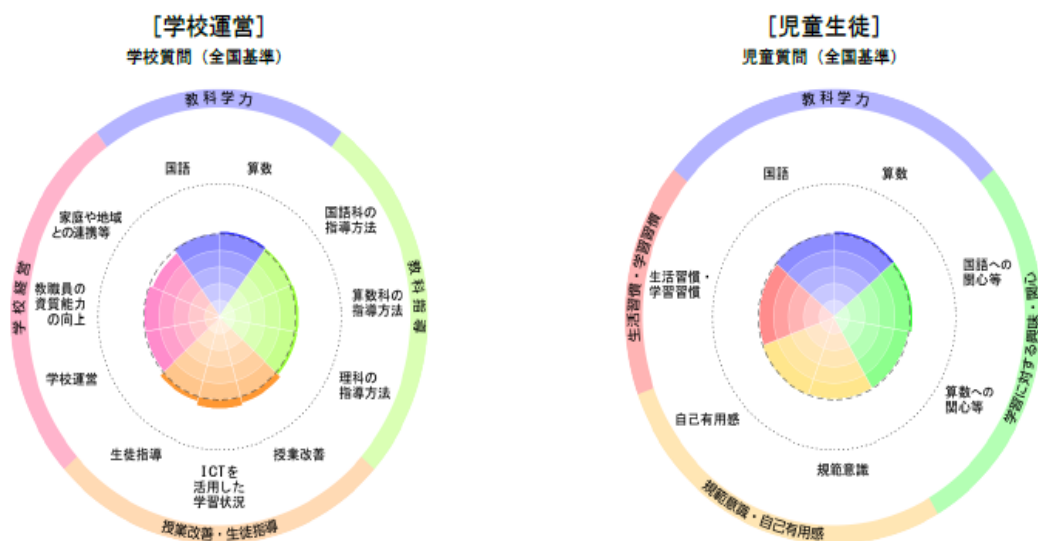
<算数科>

- ・ほとんどの設問で県や全国の正答率を上回っている。特に、空間認識や数量の関係性に基ついた思考力を問う領域での正答率が高い。問題形式別では、比較的即答が求められる短答式・選択式の問題に強い傾向が見られる。
- ・記述式の正答率は全体的に低く、本市児童も例外ではない。特に、道のりと速さの問題や折れ線グラフの読み取りの正答率が低い。これは論理的に説明する力や複雑な問題を解く力に改善の余地があることを示している。
- ・「直方体の見取図」「円グラフの特徴の理解」「データの整理と分類」など、図形やデータを読み取り、整理する問題では、県及び全国平均を上回る結果を示している。これらは、児童の空間認識能力やデータ分析力が高いことを示しており、授業において視覚的な情報を活用した学習方法が効果を発揮していると考えられる。
- ・総括すると、本市の児童は空間認識や数量関係の理解、データ処理において強みを持っている一方で、記述式問題における論理的表現力に課題が見られる。今後の指導の焦点としては、理解したことを表現する力の向上を目指すとともに、速さや除法などの実生活と結びつけた学習の強化があげられる。

(2)学校質問調査・児童質問調査

【全国との比較】 ※ 左:学校質問 右:児童質問

学校数	児童数
17	1,056



【考察】

<学校質問>

- ・本市の児童は、授業で自分の考えを表現することや学ぶ内容を自主的に計画して学習する活動が県及び全国と比較して高い割合で実施されている。これにより、本市の各学校における指導方法が主体的な学びを重視し、児童が自分の考えを積極的に発信する力を育てていることが伺える。
- ・ICT 機器の活用におけるサポート体制や家庭との連絡における ICT 機器の使用においても、本市は県及び全国を大きく上回っている。これにより、ICT 教育の充実や家庭とのコミュニケーション強化が進んでいることが明らかであり、教育のデジタル化が効果的に実施されていると評価できる。
- ・特別支援教育に対する理解や児童への適切な指導に関しても、本市は県や全国と同様に高い水準にある。この結果から、本市では特別に支援が必要な児童に対しても、適切に対応するための環境やスキルが整備されていることがわかる。特に、特性に応じた指導の工夫が行われており、全ての児童に適した学習環境が提供されていることが示されている。
- ・本市は、学力調査結果の保護者や地域への情報公開に積極的に取り組んでおり、県や全国平均を大きく上回っている。この質問紙の結果から、地域や保護者との連携を重視し、透明性のある学校運営を行っていることが伺える。

<児童質問>

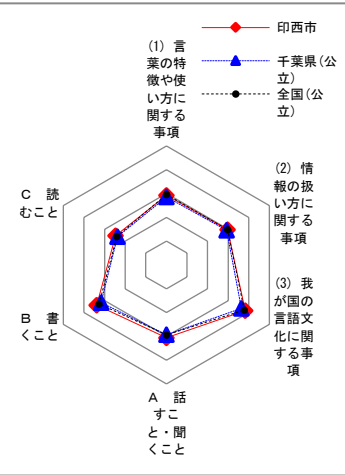
- ・本市の児童は国語科や算数科の授業内容については、よく理解できていると答えている。一方で、国語科や算数科の学習が「好き」という回答は理解度に比べて若干低く、特に算数科では全国平均を下回っている。この差から、学習内容の理解は進んでいるものの、興味や楽しさを感じる部分が不足している可能性が示唆される。今後は学びの楽しさや興味を引き出す授業方法の工夫が必要である。
- ・授業での ICT 機器の使用率に関しては、県及び全国平均を大きく上回る結果となった。これは本市の学校が ICT 機器を効果的に授業に取り入れていることを示しており、教育環境のデジタル化が進んでいる点で先進的である。さらに児童の主体的な学びを促進するような活用法を継続・発展させていくことが望まれる。
- ・道徳の授業における活動や「いじめはいけない」という認識については、本市の児童は県及び全国平均を上回る高い肯定率を示している。また、他者を助ける意識や自分の良いところを認める意識も高いことから、社会性や道徳的な価値観がしっかりと育まれていることが分かる。これは学校全体の教育方針が効果的に機能している証拠であり、継続的に強化すべき点といえる。
- ・「朝食を毎日食べている」や「同じ時刻に寝る」といった生活習慣については、県及び全国平均と比較しても良好な結果を示している。これは学校と保護者との連携がうまく機能していることを示し、生活習慣が学習にも良い影響を与えている可能性が示唆される。ただし、睡眠時間の一定化に関しては、改善の余地があり、引き続き家庭や地域との連携を深め、生活習慣のさらなる向上を目指すことが重要である。

3 中学校調査

(1)教科に関する調査【全国・千葉県との比較】

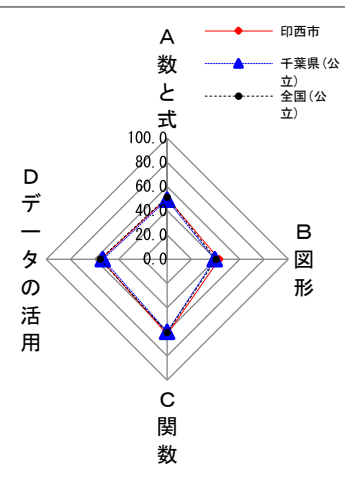
【国語科】

対象生徒数		印西市教育委員会	千葉県(公立)	全国(公立)		
		937	44,065	875,574		
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			印西市	千葉県(公立)	全国(公立)	
全体		15	59	58.1		
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使いに関する事項	3	58.5	57.1	59.2
		(2)情報の扱いに関する事項	2	59.4	58.5	59.6
		(3)我が国の言語文化に関する事項	1	76.6	72.8	75.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	61.2	58.7	58.8
		B 書くこと	2	67.6	63.4	65.3
		C 読むこと	4	49.4	47.3	47.9
評価の観点	知識・技能	6	61.8	60.2	62.0	
	思考・判断・表現	9	57.4	54.7	55.4	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	61.9	59.8	61.0	
	短答式	3	61.9	60.9	61.8	
	記述式	3	48.3	44.2	45.5	



【数学科】

対象生徒数		印西市教育委員会	千葉県(公立)	全国(公立)	
		938	44,056	875,952	
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			印西市	千葉県(公立)	全国(公立)
全体		16	53	52.5	
学習指導要領の領域	A 数と式	5	50.5	49.1	51.1
	B 図形	3	42.9	39.2	40.3
	C 関数	4	62.2	60.1	60.7
	D データの活用	4	54.9	53.2	55.5
評価の観点	知識・技能	11	64.1	61.7	63.1
	思考・判断・表現	5	29.0	27.6	29.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	58.0	56.7	58.5
	短答式	6	69.1	65.8	67.0
	記述式	5	29.0	27.6	29.3



【考察】

<国語科>

- ・設問ごとの正答率は、県や全国平均を上回るか同等のレベルにあり、基礎的な学力や思考力については、概ね身に付いているものといえる。
- ・昨年度課題とされていた記述式の問題において、本市の正答率が県や全国平均を上回り改善傾向が見られる。自分の考えを論理的に表現する力が向上していることから、授業での継続的な取り組みが効果を発揮しているものと考えられる。
- ・情報同士の関係性や表現技法の理解については全国平均を下回っており、この領域に課題があることがわかる。今後は授業の中で論理的な思考力や表現技術を高めるための手立てを講じていく必要がある。

・昨年度同様、漢字の書き取りや文脈理解に課題が見られる。日常的な漢字の書き取りや同音異義語の扱いに加え、文脈に応じた正しい漢字の選択を意識した指導が求められる。

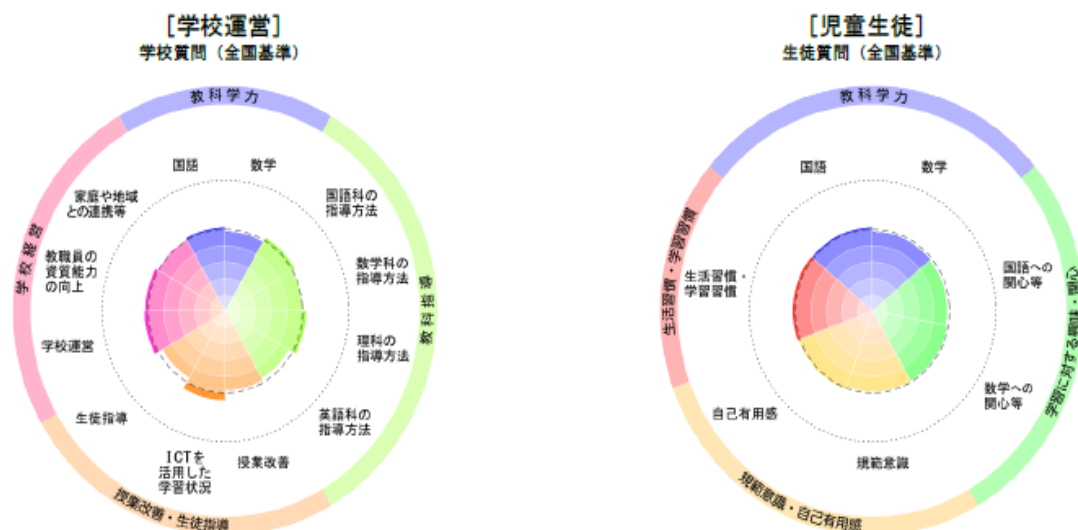
<数学科>

- ・短答式の問題における正答率は比較的高く、特に「確率の計算」や「最頻値の計算」、「グラフの交点の解釈」などで県や全国平均を上回っており、基本的な計算スキルの定着は良好である。
- ・選択式問題において、本市は県や全国平均とほぼ同等か、もしくは上回る結果であった。図やグラフを基に概念を理解し、それを正しく選択する力が培われていることが示唆される。
- ・「四分位範囲の比較」では、本市は県及び全国平均を下回る。データの背後にある数学的意味を考察する力が不十分で、データ解析や統計的思考に関する授業の充実が求められる。
- ・記述式の問題では、全体的に県や全国平均を下回っている。特に「事柄が成り立つ理由の説明」や「数学的解釈の説明」の正答率が低い。自分の考えを整理し、文章で説明する力を伸ばすための指導が求められる。

(2)学校質問調査・生徒質問調査

【全国との比較】 ※左:学校質問 右:生徒質問

学校数	生徒数
9	938



【考察】

<学校質問>

- ・国語科及び英語科の授業に関する設問では、県や全国平均を上回る肯定的回答であった。特に、表現力を重視した国語科の指導や全体の要点を捉える英語科の読解力指導により、生徒の思考の深まりや表現の豊かさが培われていることが推察される。

- ・授業中に自らの考えを効果的に伝える機会は、県や全国平均を下回っていることから、生徒の各教科における発表スキルの育成が十分ではないことが示唆される。特に、グループ活動や話し合いの場において、自分の意見をしっかり伝えられる生徒が少ないことは、コミュニケーション能力の向上に向けたさらなる工夫が必要であり、指導方法の改善が求められる。
- ・ICT を活用した校務の効率化や教育課程の改善において、県や全国平均を大きく上回っている。校内での ICT 機器の活用やデータに基づく PDCA サイクルを効果的に行うことにより、業務の効率化や教育活動の改善が着実に進められている。
- ・「自分で内容を決め、計画を立てて学ぶ活動」や「学習過程を見通した指導の改善」では、県や全国平均を下回っている。このことから、生徒が自ら課題を設定し、自律的に学習を進めるための支援を強化していく必要がある。この取り組みにより、探究的な学びや問題解決型の学習をさらに促進していきたい。
- ・家庭学習に関する生徒の自主的な学びへの取り組み結果から、家庭学習における自主性を促す指導や支援体制の一層の充実が課題である。

<生徒質問>

- ・国語科や数学科について「授業の内容がよく分かる」との肯定的回答は、県及び全国平均を大きく上回る。これに対し、「好き」の割合は、県及び全国平均とほぼ同等か若干低い。教科の理解度に学習意欲が比例していないことから、今後教科に対する興味・関心を向上させる取り組みが求められる。
- ・英語科に関する設問では、即興で考えや気持ちを英語で伝える活動や英語で書く活動の実施率が県や全国平均と比較して高い。このことから、英語の授業で生徒の表現力を育てる取り組みがうまく機能していることがうかがえる。さらに英語に対する学習意欲が向上するよう指導内容・方法の改善に努めたい。
- ・「自分にはよいところがある」や「先生は自分のよいところを認めてくれている」の項目では、県及び全国平均を上回っており、生徒の自己肯定感が高いことがわかる。また、規範意識に関わる回答から、集団活動を通じて相互理解を深める取り組みが効果的に機能していることが示唆される。
- ・ICT 機器の使用に関する項目では、県や全国平均と比較すると非常に高い使用率を示している。デジタル技術を積極的に授業に取り入れることで、生徒の学習意欲を高め、授業内容の理解度を向上させているものと推察される。
- ・「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」との設問では、県及び全国平均を下回っている。学習の効果は、生活習慣の安定と密接に関わっていることから、規則正しい生活を維持するための取り組みが引き続き重要となる。
- ・回答結果全体から、本市は授業の理解度や自主性の育成において顕著な成果を上げており、特に ICT を活用した指導方法に先進的な取り組みが見られる。しかし、学習意欲の向上や生活習慣上に課題があることから、これらの分野における指導内容や方法のさらなる工夫・改善が求められる。